

友好締結30周年中国・石家庄市で 長野市の観光PR～郷土食“おやき”紹介～

長野県長野市企画政策部秘書課国際室長 日台 和子

1 はじめに

長野市と中国河北省石家庄市は、1981年4月19日に友好都市を締結して以来、昨年で30周年を迎えました。

石家庄市は、首都北京から南西280kmに位置する都市で、長野市と地形的、気候的に似通っており、また内陸都市として農業、特に果樹栽培が盛んであったことなどが交流のきっかけとなりました。石家庄市の締結時の人口は97万人でしたが、周辺地区との合併もあり現在の人口は、1,027万人の大都市で、紡績、バイオ医薬、機械、電子工業が盛んです。

友好都市締結以来、長野市からは中学生の訪問団を毎年派遣し、石家庄市からの農業、工業、語学などの研修生や中学生などの訪日団を毎年受け入れてきました。さらに、5周年ごとの両市友好訪問団の相互派遣などを行い、友好関係を深めてきました。

しかし、経済面での交流は厳しい状況で、近年、経済発展著しい石家庄市への長野県内・長野市内企業の進出は1件もなく、さらに両市民の観光面での交流もほとんどない状況です。また、昨年3月に発生した東京電力福島第一原子力発電所事故を受けた中国政府の日本からの食品輸入規制で、長野県を含む10都県の食品・農産品（農作物とその加工品）・飼料の輸入が禁止されたままです。

そんな中、昨年東日本大震災の影響で延期となっていた石家庄市への30周年記念訪問は、市民を募って今年4月に訪中することがようやく決定しました。市民レベルの交流、特に経済・観光分野の交流を活発にすることが、今後の両市の互恵関係を構築する基本と考え、互いの都市の潜在価

値や魅力を知る機会として、友好都市締結以来、初めての両市企業関係者が参加する経済懇談会や観光PR活動を行いました。

2 経済懇談会に石家庄市内企業が多数参加

石家庄市到着後最初に開催された経済懇談会は、石家庄市側から市関係者のほかに企業関係者20人が集まり、長野市側は市長、市議会議員、他市関係者のほかに長野市内の企業関係者と経済団体等役員など総勢25人が参加しました。懇談会には、企業関係者が多数参加されたので、企業提携や企業進出などについて具体的な話ができ、過去に比べて前進した会議となりました。石家庄市側の企業関係者には、若い起業家が複数いて、超高度成長の真っただ中にいる彼らは、活力と自信に満ちあふれていました。現在の中国経済発展の原動力は、彼らのような若い起業家の底知れぬパワーにあるのではないかと感じました。



両市の企業関係者が参加した経済懇談会（中国側出席者）

3 観光PR 長野市の魅力を発信

石家庄市滞在2日目に、両市の観光PR活動を

行い、会場には石家州市の観光事業関係者や観光専門学校生徒、一般市民約80人が参加されました。長野市側は訪問団50人全員が揃いの法被を着て参加しました。今回の長野市の訪問団には、ながの観光コンベンションビューロー、観光協会、観光施設運営事業者として長野市開発公社などが参加し、DVDなどを使用して長野市の観光について説明しました。DVDは、この日に合わせて制作したもので、内容は充実していて、視聴された参加者が映し出された美しい映像に感嘆の声を上げることもあり、長野市の魅力を大いに感じていただくことができました。



長野市観光PR活動 ステージ上に並ぶ長野市長他長野市観光関係者

また、長野市の郷土食を紹介する企画として「おやきの試食」を行いました。おやきは小麦粉などを水で溶いて練り、薄くのばした皮で小豆、野菜などで作ったあんを包み、焼いたり、蒸したりしたもので、長野市の郷土食で家庭でも作りますが、市内にはたくさんのお店があります。今回、おやき製造・販売店の鬼無里いろは堂さんが、公募団員としてご参加いただきましたが、社長さんと女将さんは、東京電力福島第一原子力発電所事故の影響で、中国では、長野県食材の輸入禁止措置を受けているため、現地の材料しか使えないという状況の中、前日、石家州市到着後に現地で食材調達から準備していただきました。当日は、初めて使う食材に不安を抱えての調理だったとのこと。しかし、公募参加の長野市日中友好協会の女性の皆さんのお手伝いもあり、無事におやきが出来上がり、石家州市側参加者に配ることができました。作った200個のおやきはあっという間に品

切れとなり、おいしいと大好評でした。



現地の食材で作った長野市の郷土食「おやき」を試食する石家州市観光関係者

石家州市側参加者の皆さんは、長野市の豊かな自然、澄んだ空気、温泉、雪質のいいスキー場、おいしい食べ物などに大変興味を持たれたようで、初めてのイベントとしては手応えのあるものだったと感じました。

4 おわりに

今回は、近年急激な勢いで発展する大都市石家州市に、公募市民を含め総勢50人の大訪問団で訪問しましたが、あらためて友好都市交流は市民レベルの交流を基本に、将来にわたり継続していくことが大切だと感じました。特に、これまでの交流の中心であった学生交流に加え、経済・観光分野での交流を一層推進していく必要があると考えています。中国でも口コミの効果が大きいようで、今回観光PRで紹介した長野市松代温泉はその泉質・効能などにも大変注目され、長野市訪問団が帰国してから石家州市から来日した視察団や研修生は、必ず同温泉入浴を希望されるようになりました。観光交流は、まだ始まったばかりの取り組みですが、今後、官民一体で積極的に取り組み、交流の輪を広げていきたいと思っています。

さらに、石家州市を訪問したことで見えてきた課題、急激な発展の影で遅れている大気汚染、ごみ・汚水処理などの環境問題や歴史的文化遺産などの保護、そして健康・福祉などの分野などにおいて、今後、交流の重要性が増してくると思われますので、両市の発展と次世代につながり未来に広がる交流を一層推進していきたいと考えています。